

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20 年 7月 7日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 50分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム回生園 (鹿児島県)
-------------------	------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 山下 賀子 氏名 石松 成子
事業所側対応者	職名 園長 事務長 管理者 氏名 風呂井京子 市坪洋三 小園勝己 ヒアリングを行った職員数 4名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県 第4677000129号		
法人名	社会福祉法人三峰会		
事業所名	グループホーム回生園		
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町菱田家戸原3063番地 (電話) 0994-77-0372		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	

【情報提供票より】 (平成 20年 6月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 7日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 6月 2日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	
年齢	平均 90歳	最低 80歳	最高 102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草野クリニック 上床歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスがあり、行事毎の交流や協力体制がある。ホーム周辺はお茶の木や、つわ、梅などの木が植えられ、入居者と一緒に収穫し、季節感を味わいながら、お茶作りや果物のシロップ漬等を行っている。ウッドデッキでのお茶会ができ、室内は入居者の手作りの陶芸作品や書道や絵等が飾られ明るい雰囲気である。入居者は公文式学習療法・歌や体操・及び書道等得意分野に力を発揮しながら生き生きと生活を楽しんでいる。運営者の「福祉を通して地域に貢献したい」との思いは、管理者はじめ職員にも伝わって浸透している。職員は「温かく、やさしく」の理念を介護の基本として入居者の笑顔のある暮らしをチームワークで支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の見直しは、協議中である。重度化や終末期に向けた方針は、家族への説明がされ共有化している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かすようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回行い、行事内容や入居者の生活状況報告を行い、出された意見は皆で検討し改善に向けた取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会時や面会時に家族の意見や要望等、何でも話してもらえるように声かけを行ったり、アンケートを実施している。出された意見はスタッフで話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	併設施設と協力し合同の夏祭りを開催したり、合同の避難訓練時に地域住民の協力が得られている。保育園児やボランティアの受け入れ、小学校の運動会への参加、地域の展示会への絵、書道、陶芸の出展など、地域の一員として交流を深めるための活動を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「温かく、やさしく」を理念として掲げ取り組まれているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容についての見直しは協議中である。	○	これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を考えながら、事業所独自の理念を作り上げる事が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示し、申し送りやミーティング時に確認し、入居者に笑顔を多く持たせたいと日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
り					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホームと協力して合同の夏祭りを主催し、地域住民との交流を図っている。保育園児・ボランティアの受け入れや、小学校の運動会への参加のほか、地域の展示会へ手芸品、絵、陶芸を出品するなど、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームでの行事内容や入居者の生活状況報告を行い、出席者の意見を聴き情報交換しながら、サービス向上に活かした取り組みをしている。		

グループホーム回生園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者と連絡を取り合い、入居者の状況について情報交換や相談を行いながら連携を図っている。又、町の委託を受けて、管理者は認知症についての講義を行い、協力しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや様子を面会時に報告するとともに、毎月担当者が電話での報告も行っている。ホーム便りには個別に入居者の写真を載せる工夫をして家族に喜ばれている。金銭出納記録は毎月送付し家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時や面会時に家族の意見や要望等、何でも話してもらえるよう声かけを行ったり、アンケートも実施している。出された意見はスタッフで話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新入職者はホーム内に写真を掲示したり入居者や家族に紹介し、信頼関係を築くよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し伝達講習を行っている。毎月法人全体の研修と内部研修を実施している。個人目標を立て6ヶ月毎に管理者が評価しながら職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地区グループホーム連絡評議会」に加入し職員も交代で研修に参加している。又、他2グループホームとの交流もあり、入居者と一緒に見学したり情報交換を行いながら、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
向けた					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば本人、家族にホームの見学をしてもらい、ホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。入居後も必要な時は家族の協力を得て外泊したり、自宅までの外出を試みるなど本人が安心して過ごせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、梅干し、餅つき、あく巻き作りなど、一緒に学び支え合う関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、日々の生活の中での、本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向にそった支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族から意向や希望を聞き、受け持ちの職員を中心に情報収集した気づきや課題を話し合いながら、個別に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングと、3ヶ月に1回ケアチェック表及びケアプランの見直しを行っている。状態変化時や家族の要望時は随時見直しを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	家族と話し合い本人の意向に 沿った通院の支援を行っている。 併設のデイサービスや特別養 護老人ホームでの行事参加や 交流支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居者及び家族が希望する かかりつけ医となっており、 適切な医療が受けられるよう 支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた 方針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	「看取りの指針」については、 文書が作成されている。 ホームの方針としては重度 化した場合は主治医と話し 合い、特別養護老人ホーム で看取るという事を家族にも 説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の 徹底 一人ひとりの誇りやプライ バシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の 個人情報の取り扱いをして いない	管理者は個人情報の保護 やプライバシーの確保に 留意し、自尊心を大切に した声かけや対応の仕方 を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい 暮らし 職員側の決まりや都合を 優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に し、その日をどのように 過ごしたいか、希望に そって支援している	入居者の状態に合わせて、 起床時間、食事、入浴、 散歩など希望を聞きなが ら、本人のペースに合わ せた柔軟な支援をしてい る。		

グループホーム回生園

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は月1回の給食会議で、摂取できる方法を検討したり、選択メニューを月1回取り入れている。週2回ゼリーの手作りを一緒に行っている。食事の準備や片付けは職員と一緒にいき、食事が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、基本的には午後からの入浴となっている。入居者の希望に合わせた男女スタッフの配慮も行い、安心してゆっくり入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、役割分担を行い、希望者は公文式学習療法を取り入れたり、エレクトーン・絵画・書道・陶芸など個々の状況に応じた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のドライブ、3ヶ月に1回の外食、花見や初詣、天気の良い日はホーム周辺の散歩を行い、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として日中は鍵をかけないケアを実施している。併設施設の職員の協力をもらいながら見守り対応ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設施設の合同避難訓練と、ホーム独自の避難訓練を地震と火災を想定し実施している。地区の消防団を含めたボランティアの参加もある。又、災害に備えての物品も用意されている。		

グループホーム回生園

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分量を把握するとともに、定期的に体重測定を行い栄養状態を把握している。併設施設の栄養士と連携を図りながら、個々の状態に合わせた支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井も高くソファやテーブルもあり明るい雰囲気である。、リビングに面したウッドデッキはお茶会をしたり物干し場になったり多様に活用されている。スロープは避難経路として安全に配慮され、室内は季節の花や入居者の作品が展示され、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台は備え付けとなっており、ベッドやタンス、テレビ、椅子、写真や花など、持ち込みの家具で、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。